

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人 福島福祉施設協会

I 事業報告

1. 福祉施設経営

福島市の総合福祉施設経営団体として、合理的かつ能率的な施設経営を行うとともに、地域住民や利用者の要望に対処するため、地域社会と密接な連携を保ちながら、施設機能の活用を図るとともに福祉向上に努めた。

2. 法人運営

- (1) 社会福祉法人としての重要な役割を果たすべく、経営組織をもって事業運営に関する透明性の向上ができるよう諸規程の整備を行った。
- (2) 職員の人材確保のため、広報活動を盛んにし適時に職員採用試験を実施。臨時雇用職員から2名、新規採用者の4名の優秀な人材を採用した。
- (3) 利用者の立場にたち、多様化するニーズに的確に対応出来るように満足度調査や第三者評価を受審し、自主的改善に努めた。
- (4) よりよい福祉サービス提供のため、職員が心身ともに元気に働ける職場を目指した健康づくりや職員処遇改善全般の向上に努めた。

3. 重要な取り組み

- (1) 法人経営の安定的な継続や地域社会の説明責任を果たし、信頼を高めるための中長期計画の策定に向けて検討会を起ち上げ、基本理念を決定した。
- (2) 会計監査導入に向けた取り組みとして、固定資産物品の管理台帳やリース台帳の整備に努めた。
- (3) 多様な人材の雇用として、新たに障がい者2名を採用し、継続的な雇用に努めた。
- (4) 避難先確保のため避難場所提供の覚書を交わし、安全対策に努めた。
- (5) 職員の人材確保と定着に努めるとともに、各種研修を通じ社会福祉理念、技術の修得向上等、法人全体の福祉サービス向上に努めた。

- ・主任職員研修 (年2回)
- ・新人職員研修 (年5回)
- ・児童厚生員研修 (年3回)
- ・職員丙・パート職員セミナー (年1回)
- ・施設長・主任研修 (年1回)
- ・職員全体研修 (年1回)

- ・各施設に血圧計の設置や健康診断後の二次健診を徹底し、健康づくりに努めた。
- ・計画的な年次有給休暇の取得に向け実績調査をし、該当者全員年間5日以上取得することができた。

4. 評議員会・理事会・監事会の開催

(1) 評議員会

定時 令和元年6月24日(月)

- | | |
|-------|------------------|
| 報告第1号 | 平成30年度事業報告 |
| 議案第1号 | 平成30年度決算承認の件 |
| 議案第2号 | 令和元年度各会計資金収支補正予算 |
| 議案第3号 | 理事選任の件 |
| 議案第4号 | 監事選任の件 |

臨時第1回 令和元年12月19日(木)

議案第5号 令和元年度各会計資金収支補正予算

臨時第2回 令和2年2月20日(木)

議案第6号 令和元年度各会計資金収支補正予算

臨時第3回 令和2年3月23日(月) 書面決議

議案第7号 令和元年度各会計資金収支補正予算

議案第8号 令和2年度事業計画策定の件

議案第9号 令和2年度各会計資金収支予算

議案第10号 理事選任の件

(2) 理事会

第1回 平成31年4月1日(月)

議案第1号 副会長選任の件

議案第2号 常務理事選任の件

議案第3号 飯坂保育所外壁塗装工事請負契約締結方法決定の件

第2回 令和元年6月7日(金)

議案第4号 平成30年度事業報告承認の件

議案第5号 平成30年度各会計決算承認の件

議案第6号 福島恵風園デイサービスセンター(指定地域密着型通所介護)運営規程の一部変更の件

議案第7号 福島恵風園デイサービスセンター(介護予防・日常生活支援総合事業)運営規程の一部変更の件

議案第8号 めぐみの風居宅介護支援センター運営規程の一部変更の件

議案第9号 ホームヘルパーステーションめぐみ(指定訪問介護)運営規程の一部変更の件

議案第10号 ホームヘルパーステーションめぐみ(介護予防・日常生活支援総合事業)運営規程の一部変更の件

議案第11号 保育所職員に対する処遇改善に係る手当等の支給に関する規程制定の件

議案第12号 令和元年度各会計資金収支補正予算

議案第13号 飯坂保育所外壁塗装工事請負契約締結の件

議案第14号 パソコン購入契約締結方法決定の件

議案第15号 定時評議員会招集事項決定の件

第3回 令和元年6月24日(月)

議案第16号 会長選任の件

議案第17号 副会長選任の件

議案第18号 常務理事選任の件

議案第19号 パソコン購入契約締結の件

第4回 令和元年9月12日(木)

議案第20号 福島恵風園デイサービスセンター(指定地域密着型通所介護)運営規程の一部変更の件

議案第21号 福島恵風園デイサービスセンター(介護予防・日常生活支援総合事業)運営規程の一部変更の件

議案第22号 保育所管理規程の一部変更の件

- 議案第 23 号 介護職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程制定の件
報告第 1 号 職務の執行状況について
- 第 5 回 令和元年 12 月 10 日 (火)
- 議案第 24 号 保育所管理規程の一部変更の件
議案第 25 号 令和元年度各会計資金収支補正予算
議案第 26 号 令和元年度第 1 回臨時評議員会招集事項決定の件
- 第 6 回 令和 2 年 2 月 12 日 (水)
- 議案第 27 号 介護職員の処遇改善に係る手当の支給に関する規程制定の件
議案第 28 号 令和元年度各会計資金収支補正予算
議案第 29 号 令和元年度第 2 回臨時評議員会招集事項決定の件
- 第 7 回 令和 2 年 3 月 16 日 (月)
- 議案第 30 号 令和元年度各会計資金収支補正予算
議案第 31 号 就業規則の一部変更の件
議案第 32 号 職員服務規程の一部変更の件
議案第 33 号 職員給与規程の一部変更の件
議案第 34 号 無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件
議案第 35 号 臨時雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件
議案第 36 号 福島恵風園管理規程の一部変更の件
議案第 37 号 ホームヘルパーステーションめぐみ(指定訪問介護)運営規程の一部変更の件
- 議案第 38 号 令和 2 年度事業計画策定の件
議案第 39 号 令和 2 年度各会計資金収支予算
議案第 40 号 令和元年度第 3 回臨時評議員会招集事項決定の件
議案第 41 号 施設長等選任の件
- 第 8 回 令和 2 年 3 月 25 日 (水) 書面決議
- 議案第 42 号 福島恵風園給食業務委託契約締結の件

(3) 監事会

- 令和元年度 業務執行、財務状況監査
令和元年 5 月 27 日 (月) 28 日 (火)
- 令和元年度 現地視察
令和元年 9 月 18 日 (水)
福島恵風園・福島隣保館保育所・福島保育所
- 令和元年度 期中監査
令和元年 11 月 27 日 (水) 28 日 (木)

5. 役員等研修会への参加

- 令和元年度 福島県社会福祉法人経営協・全国経営者協議会共催セミナー (前期)
- 主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会・経営者協議会
期 日 令和元年 7 月 3 日 (木)
場 所 ビッグパレットふくしま
出席者 渡辺 千賀良
- 令和元年度 社会福祉法人評議員研修
- 主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会
期 日 令和元年 8 月 2 日 (金)

場 所	ビッグパレットふくしま
出 席 者	紺野 啓三
令和元年度	社会福祉法人理事研修
主 催	社会福祉法人福島県社会福祉協議会
期 日	令和元年10月29日(火)
場 所	郡山ユラックス熱海
出 席 者	渡邊 英子
令和元年度	社会福祉法人監事研修
主 催	社会福祉法人福島県社会福祉協議会
期 日	令和元年10月7日(月)
場 所	郡山ユラックス熱海
出 席 者	槇 恵一
令和元年度	福島県社会福祉法人経営協・全国経営者協議会共催セミナー(後期)
主 催	社会福祉法人福島県社会福祉協議会・経営者協議会
期 日	令和2年1月17日(金)
場 所	ビッグパレットふくしま
出 席 者	渡辺 千賀良
社会福祉法人	役員・管理者向けセミナー
主 催	公益財団法人 公益法人協会
期 日	令和2年3月27日(金)
場 所	仙都会館
出 席 者	渡辺 千賀良

6. 職員研修の実施

令和元年度	新規採用職員研修会
期 日	平成31年4月16日(火)、令和元年9月10日(火)
場 所	協会会議室
内 容	社会人としての基礎理解・基本的姿勢を学ぶ
出 席 者	6名
令和元年度	主任研修会
期 日	平成31年4月18日(木)、令和元年5月16日(木)、 6月13日(木)、7月11日(木)、8月22日(木)
場 所	協会会議室
内 容	リーダーシップの基本的姿勢を学ぶ
出 席 者	13名
令和元年度	児童厚生員研修会
期 日	平成31年4月24日(水)、令和元年5月29日(水)、 7月10日(水)
場 所	吉井田支所大会議室、協会会議室
内 容	児童センターの役割
出 席 者	23名
令和元年度	職員丙・パート職員 働き方セミナー
期 日	令和元年9月17日(火)
場 所	福島市リサイクルプラザ研修室

内 容	社会保険等のしくみ
出席者	42名
令和元年度	職員合同研修会
期 日	令和元年10月19日(土)
場 所	とうほうみんなの文化センター
内 容	相手の心に響く「フィードバックの技術」
参加人数	95名
令和元年度	施設長・主任研修
期 日	令和2年1月15日(水)
場 所	吉井田支所大会議室
内 容	個人情報の適切な取扱いについて
参加人数	25名

7. 苦情受付

(1) 令和元年度苦情受付件数

施設分類	件数	内容
高齢者施設	6件	環境4、その他2
保育所	8件	保育サービス6、施設整備1、制度1
児童センター	4件	サービス2、その他2
合計	18件	

(2) 苦情内容

高齢者施設	苦情申出人	利用者の家族
	苦情内容	五十嵐歯科から福島恵風園に向かう道幅の狭い道路を高スピードで通っていく車があり、確認したところ恵風園に入っていくのが見えた。大変危険なので、スピードを落として安全運転で走行して欲しい。
	処理内容	福島恵風園内事業所職員に対し注意喚起し、安全運転を心がけるよう周知した。また、法人内他施設職員に対しても注意を呼びかける文書を作成し周知した。
保育所	苦情申出人	保護者
	苦情内容	「新型コロナウイルス感染症対策のための学校休業による保育所等への登園について」という福島市からの文書を頂き、その文書だけで保育士から次の日から家に保護者がいる場合は一緒に過ごせないかと言われた。保育所に預ける保護者として、平等に預ける権利を保障して欲しい。
	処理内容	<ul style="list-style-type: none"> 不快な思いをさせてしまったことに対し謝罪をしたうえで、本児の母親は昨年入退院を繰り返しており本児は泣いて過ごすことが多かったため、その姿を伝えながら、保育を受けられないということではなく、産休期間中更に緊急事態であることもふまえ、家で過ごすことが良いのではないかと提案であったことを伝えた。 家庭で話し合った結果、6月より幼稚園入園が決まっているため退所することとなった。

児童センター	苦情申出人	地域住民
	苦情内容	児童センターから聞こえてくる子どもの声がうるさく窓を閉めていても部屋の中まで聞こえてきてとても気になる。声を出さずに遊んだり、200メートル先の公園で遊ばせるなど配慮して欲しい。
	処理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メール、電話で苦情が入るがその都度相手の訴えたいことを丁寧に聴く対応をとってきた。一方的に話をするが、それに対し「配慮します」と伝えると「ありがとうございます」と言って電話を切る。 ・職員間で協議し、戸外遊びの際は短時間で休憩を取り、大きい声を出さないようにする等声掛けを行いながら周辺住民に配慮するよう確認しあった。地域の関係機関や福島市の担当課とも相談しながら対応している。

8. 地域における公益的な取組

(1) 情報の発信

① 健康に関する情報の発信、介護相談窓口

発信方法：地域の多くの住民が集まる養護老人ホーム福島恵風園の夏祭りにて情報のパンフレットを配布

内容：情報発信と同時に、介護に関する悩み・困りごとの相談窓口を開設し連絡先と担当者名をパンフレットの中に記載

取組施設：福島恵風園デイサービスセンター
めぐみの風居宅介護支援センター
ホームヘルパーステーションめぐみ

② 「おかあさん だいじょうぶ！」

発信方法：当協会ホームページの専用ページに掲載

内容：子育てに悩んでいる保護者を対象に専門職である保育士・栄養士から子育てや食育に関する情報を毎月1回発信
子育て情報

テーマ「こんなことあるよね」

食育情報

毎月の季節に合った食の情報、保育所のレシピ紹介

取組施設：福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所
福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

③ 「じょうぶな心と体をつくろうプロジェクト」

発信方法：当協会ホームページの専用ページに掲載

内容：子どもの時期は遊びを通して体を動かして遊ぶ機会が大切と考え、全6回に渡り各年齢の遊びに関する情報を発信

取組施設：福島隣保館保育所

(2) 体験事業

「保育所にあそびにきませんか」

対象者：地域の乳幼児とその保護者

開催回数：1年に5～6回

内容：保育所での生活を体験

水あそび、運動あそび

制作等同年齢・異年齢の子どもとの交流

給食の無料提供

育児相談

取組施設 : 福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所

福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

取組の成果 : 育児について疑問に思っていたことや不安なことなどを、専門職である保育士や栄養士に相談することで、年齢ごとの発達を理解することや成長の見通しができたり、食事については実際に手に触れ、口にすることができたりと保護者に好評である。

Ⅱ 実績報告書

養護老人ホーム 福島恵風園

1. 運営管理

- (1) 入所者の終の棲家と考え、快適な生活が送れるよう、健康、食事、生活に潤いを与える行事活動の充実を図った。
- (2) 介護の必要な入所者は介護保険サービスを利用し、機能の維持を図った。
- (3) 被虐待高齢者、また一人暮らしによる生活苦の高齢者、身元引受人のいない高齢者の積極的に受け入れた。
- (4) 100名の定員を充足するため、地域で生活支援を必要としている高齢者を入所につながるよう福島市、包括支援センターに働きかけた。
- (5) 養護老人ホームの入所の実態が入所基準と大差があるため、行政へ現状の報告と実状に合った職員配置を要望した。
- (6) 措置費単価において、10月より消費税増税に伴い、事務費（人件費を除く）及び生活費が2%分増額となった。
- (7) 福島市あらかわクリーンセンターからの給湯の活用をした。
- (8) 施設被災時における二次避難所の受入れ要請の覚書の締結をした。
- (9) 避難訓練を実施（火災・水害・地震等）した。
- (10) 台風15号及び台風19号で入所者の安全確保のため避難した。

2. 職員体制

- (1) 職員間の共通課題意識向上のため、各種研修会へ参加した。
- (2) 夜間業務は夜間専門員及び慈恵会との委託契約で対応した。
- (3) 園内清掃のためシルバー人材センターとの委託契約を継続実施した。
- (4) 給食業務を日清医療食品株式会社に継続委託した。

3. 施設整備

以下の施設整備を実施した。

- (1) 食堂入口バリアフリー化改修（共同募金配分事業）
- (2) 園内各寮ピット内配管修繕
- (3) 深井戸ポンプ清掃修繕・水中ポンプ更新
- (4) 真空ヒーター用排煙濃度監視制御システム修繕
- (5) 正面玄関自動ドア修繕
- (6) 機械室床暖房用送水温度制御デジタル指示調整計修繕
- (7) 発電機購入
- (8) 非常用予備発電機修繕（バッテリー・燃料フィルター他）
- (9) 非常用放送設備修繕（火災共済受給）
- (10) 倉庫新設（避難時持出品・静養棟用）

4. 健康管理

- (1) 定期健康診断、結核検診、インフルエンザ予防接種等を実施した。
- (2) インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス感染症予防のための啓蒙、各所の消毒、加湿、検温など予防に努めた。
 - ・インフルエンザが発症した場合の予防薬投与について承諾を得た。

・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症流行対策のため、面会外出制限を行った。

・新型コロナウイルス感染対策マニュアルを作成した。

(3) 熱中症予防のための啓蒙に努めた。

(4) 食中毒防止のための啓蒙に努めた。

5. ニーズへの対応

(1) アンケートをもとに7種類の旅行を企画し、41名が参加した。

(2) 外食の要望に応え、職員が付き添い3種類で45名が参加した。

(3) 花見、園外集会などの充実を図った。

(4) 月2回の食料品、年2回の衣料品の訪問販売を実施した。

(5) 自分での洗濯が困難となった入所者へ、希望によりクリーニング業者を利用できるように対応した。

(6) 室内への冷蔵庫設置を希望する利用者への対応を行った。

(7) 自分らしく最後を迎えるため、「延命措置」について入所する時点で確認を取った。

6. 地域交流活動

(1) 「七夕盆踊り大会」「地域交流ゲーム大会」を地域の協力を得て実施した。

(2) ボランティア、慰問など積極的な受け入れを行った。

(3) 学生の「体験学習」の場の提供、保育園・幼稚園や小学校との交流を継続実施した。

7. 利用状況

定員		100人		
入所	人数(3月31日現在)	101人		
		通常入所		
		男	女	計
		26	75	101
		被災者受入		
		男	女	計
		0	0	0
		退所	人数(平成30年度)	15人
理由	男		女	計
長期入院	0		0	0
死亡	1		11	12
老人保健施設への転所	0		0	0
他施設への転所	0		0	0
自宅へもどる	0		0	0
その他	0		1	1

地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業 福島恵風園デイサービスセンター

1. 運営管理

(1) 利用者の生活の質の向上のため、担当者会議等に参加し、家族や各居宅介護支援事業所等と連携を図った。

(2) 外部利用者の送迎を安全に安心出来る体制で実施した。

- (3) 入浴介助については、介護職員の確保をし、充実した介助を実施した。
 - (4) 各種行事については、季節に応じたレクリエーション等を実施した。
 - (5) 食事については、栄養士と連携し個々人のニーズに沿った提供を実施した。
 - (6) 介護相談員派遣事業の訪問を受け入れ、意見交換を通し、質の向上に努めた。
 - (7) レクリエーション・機能訓練等、楽しみながら心身活性化の実施をした。
 - (8) 年2回運営推進会議を開催し、地域との交流・連携を図った。(新型コロナウイルス感染症予防のため、3月は書面開催)
 - (9) アンケートを実施し、事業内容の改善を行った。
 - (10) 事業所内外の研修に参加し、専門職としての質の向上を図った。
2. 衛生管理
- (1) 空気清浄器を整備し施設内の消毒徹底を図り、感染予防に努めた。
 - (2) 浴槽のレジオネラ菌の検査を年1回実施した。
 - (3) インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の対策として、マスクの配布・消毒を実施し発生予防に努めた。
 - (4) 職員が感染の媒体にならないよう消毒を徹底した。
 - (5) パート職員への健康診断(労働安全衛生規則健診Ⅱ)を実施し、健康管理に努めた。
3. 施設整備
- 送迎車輛(軽自動車車椅子対応)を導入した。
4. 地域交流活動
- (1) 福島恵風園の夏祭り開催時に事業所紹介を行い、同一建物内介護保険事業所と共に災害時避難と介護相談等のチラシとクリアファイルを配布した。
 - (2) 第24回吉井田地区文化祭に利用者の作品を出展すると共に、事業所のパンフレットを配布した。
5. 利用状況

年間延べ利用者数		2,612 人	
1日平均利用者数		10.7 人	
稼働日数		245 日	
登録者	人数(3月31日現在)	36 人	
	介護度内訳	事業対象者	2 人
		支援1・2	2 人
		介護1	6 人
		介護2	13 人
		介護3	7 人
		介護4	3 人
		介護5	3 人

指定居宅介護支援事業

めぐみの風居宅介護支援センター

1. 活動状況及び事業内容
- (1) 利用者のニーズへの的確な対応及び生活の質の向上を目指し、各事業所との連携、他機関との連携を図りながら、総合的かつ効率的な視点に基づくサービス提供を実施した。
 - (2) 福島恵風園、福島恵風園デイサービスセンター、ホームヘルパーステーションめぐ

みと定期的に園内連携会議を開催し、園内利用者のニーズに即応した円滑な介護サービスの提供が行えるよう連携を図った。

- (3) 指定介護予防支援業務の委託を地域包括支援センターより受け、介護予防、総合事業のケアマネジメントを行った。
- (4) 要介護認定調査の委託を受け、毎月要介護認定調査を行った。
- (5) 事業所内外研修や更新研修に参加し自己研鑽を重ね、専門職としての質の向上に努めると共に、より良いケアプランの作成や相談援助に役立てた。
- (6) 福島県の介護支援専門員法定研修へファシリテーターとしての参加要請があり、研修の運営への参加を行った。
- (7) 地域包括ケアシステム構築に向けた地域ケア研修会や地域の諸団体との関係構築を図った。
- (8) 利用者、家族の緊急時に対応するために、常時（24 時間）担当者と連絡をとれる体制を整え、営業時間以外にも対応を行った。

2. 利用状況

居宅サービス計画作成実件数(月平均)	73 件
予防委託実件数(月平均)	5 件
給付管理年間総数	883 件
認定調査年間実施総数	88 件
在宅訪問年間総数	1,221 件

指定訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業 ホームヘルプステーションめぐみ

1. 運営管理

- (1) 主に福島恵風園在園者を中心にホームヘルプサービスを提供した。個人の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、入浴・排泄・食事等の介助及びその生活全般にわたる援助を提供した。
- (2) めぐみの風居宅介護支援センター、地域包括支援センター及び福島恵風園との連携を密にとりながら、利用者のニーズに十分配慮し、経営基盤の安定に努めた。
- (3) サービス担当者会議及びリハビリテーション会議への出席等により、保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との密な連携を図った。
- (4) 利用者のニーズに対応するため、勤務時間帯を必要に応じて変更し、充実したサービス提供に努めた。

2. 事業内容

- (1) 要介護者に対して訪問介護を提供した。
- (2) 定期的な事業所内研修の実施及び積極的な施設外研修会に参加し、職員の資質の向上と専門性の研鑽に努めた。
- (3) 福島恵風園の夏祭り開催時、打ち上げ花火の協力金を支出し、同一建物内介護保険事業所と共に、災害時避難と介護相談等のチラシとクリアファイルを配布した。

3. 安全衛生管理

- (1) インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症予防処置のため、マスク及びウイルス対策用品を備え使用した。

- (2) 万が一感染者が発生した場合に、媒体とならないよう消毒を徹底し、感染拡大予防に努めた。
- (3) 腰痛予防や転倒予防についての研修を重ね、スライドボード・スライドシートの使用やヘルパー二人体制でのサービス提供を行うなど、安全に業務を遂行するよう努めた。
- (4) 全職員への健康診断（労働安全衛生規則Ⅱ）を実施し、健康管理に努めた。

4. 利用状況

年間延べ利用者数	11,660 人	登録者 3月31日現在 44人	介護度 内訳	支援1・2	0 人
1日平均利用者数	32.0 人			介護1	9 人
稼働日数	365 日			介護2	12 人
		介護3		10 人	
		介護4		7 人	
		介護5		6 人	

老人福祉センター（福島市指定管理施設） 福島市わたりふれあいセンター

1. 運営管理

高齢者が健康で明るく楽しい日々を過ごすために、健康増進器具や囲碁・将棋及び図書、そして入浴並びに休憩等の施設を活用して憩いの場を提供した。

2. 運営方針

- (1) 利用者の安全確保に努めるとともに、生活相談等の事業を実施することにより事業の目的達成に努めた。
- (2) 地域の各種機関・団体との連携を図り、施設を地域コミュニティ活動の場として開放し、サービスの提供に努めた。
- (3) 利用者が活動しやすい雰囲気づくりに努めた。

3. 事業内容

- (1) 高齢者の生活相談、健康相談、健康指導を行った。
- (2) ふれあい交流事業として世代間交流事業に参加した。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策を実施した。

4. 利用状況

利用者数	個人	9:00～18:00	20,799 人
		上記のうち入浴者	18,258 人
	団体	9:00～18:00	13 件
		上記の人数	272 人

生きがい型デイサービス・外出支援事業（福島市受託事業） 福島市渡利デイサービスセンター

1. 運営管理

在宅で生活する介護保険対象外の比較的元気な高齢者及び家に閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者に対し、通所により各種のサービスを提供することによって、生きがいと社会参加を促進するとともに、社会的孤立感の解消及び自立生活の助成に努めた。

2. 運営方針

- (1) 市の委託事業として、利用者の確保と各種行事の実施により、円滑かつ安定した事業の促進を図り、事業目的の達成に努めた。
- (2) 高齢者と子どもたちとの交流や、高齢者の生きがいと社会参加の促進に努めた。
- (3) 事業目的の達成のため、安全で安心して利用できるセンターとして、専門性を広く公開し、地域福祉の向上に努めた。

3. 事業内容

- (1) 健康相談、送迎、入浴サービス、給食サービス（福島市契約書による）、レクリエーション、ふれあい交流事業を行った。
- (2) 生きがい活動として、趣味活動、日常動作訓練、遠足等を実施した。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策を実施した。

4. 利用状況

年間延べ利用者数	2,521 人
1日平均利用者数	11.4 人
稼働日数	222 日
登録者数(3月31日現在)	71 人

※新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年3月11日から臨時休館中

保 育 所

福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所 福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

保育所

1. 運営管理

- (1) 多様な保育ニーズに応え、保護者が安心して預けられるよう質の高い保育に努めたとともに、子どもの生命保持と健やかな生活の基本となる健康安全の確保に当たった。
- (2) 実習・体験・訪問等を受け入れ保育所の機能を知らせ、一時預かり、保育体験、避難者や地域のお年寄りとの交流を深める地域の保育ステーションとしての役割を果たすよう努めた。
- (3) 保育の質の向上を図るため、テーマを決め保育士（年3回）、栄養士（年2回）の研修に取り組み、また子育て支援の充実を図り、合同研修など全職員で専門性の向上を目指した。（新型コロナウイルス感染症予防のため、合同研修会は中止とした。）
- (4) 保育サービス向上を図るため、福祉サービス第三者評価を平成30年度に福島隣保館保育所、令和元年度に瀬上保育所が受審、他4施設も順次受審を予定している。
- (5) 令和元年10月幼児教育・保育の無償化が始まり、それに伴う副食費実費徴収については、保護者に理解してもらえよう各施設毎に説明会を行った。
- (6) 新型コロナウイルス感染症予防のため、室内・玩具の消毒に努めた。
- (7) 台風15号、19号で福島隣保館保育所・福島ふたば保育園は、子どもの安全確保のため避難した。

2. 保育状況

- (1) 保育理念のもと、保育課程に基づき発達段階に応じた保育に努めた。
- (2) 保護者との共通理解のもと、家庭保育と集団保育との相互関係を大事にしながら保育を進めた。
- (3) 食育活動として、季節の食材に触れることやクッキング活動等を通して、望ましい食生活について知らせ、健全な心と体を育てた。
- (4) 子どもの心身の発達を阻害する事象を見逃さないように努めた。

3. 食育状況

- (1) 食育年間計画、食育目標、食育方針を作成し、季節、年齢、発達段階に応じた食事の提供を行った。
- (2) 食の嗜好を常に把握しながら食事を提供し、保護者との連携を密に乳幼児の食生活の指導を行った。
- (3) 食育の促進について、保育士と栄養士との話し合いを深め全職員で取り組んだ。
- (4) 医師の診断をもとに、アレルギー除去食を実施した。
- (5) 食中毒防止に常に留意するとともに、保護者に安全を周知するように努めた。

4. 健康管理

- (1) 嘱託医による乳児健診（毎月）、内科健診（年2回）、歯科検診（年1回）を実施した。
- (2) 身体測定（毎月）を実施して、成長発達状況の把握に努めた。
- (3) 専門機関による尿検査（年2回）を実施した。
- (4) 衛生管理マニュアルに沿って、感染症の予防に努めた。

(5) 異常気象により熱中症の予防に努めた。

5. 安全管理

(1) 建物、器具、遊具等の点検を行い、安全管理に努めた。

(2) 消防署の指導のもとに、避難訓練・消火訓練（毎月）・総合訓練（年1回）を実施した。

(3) 児童にわかりやすい防災、防犯の指導に努めた。

(4) 交通安全指導の上で絵本や紙芝居を用いた実地指導を実施した。

(5) 保育所に関する全ての個人情報の取り扱いにおいては、関係者の同意を得ながら慎重に行った。

(6) 睡眠中の子どもの安全を守るため、現行の5分毎の目視確認に加えて見守りセンサー導入の検討。全施設での実施に先駆け、福島わかば保育園にて導入し、試行を行った。

6. 施設職員の資質向上

(1) 施設外研修に参加した。

① 管内外の研修に参加

② 各部会研修・研究会（施設長、主任保育士、保育士、給食担当者）へ参加

(2) 施設協会内研修を実施した。

① 年間テーマに基づいた年齢別研修及び報告会（各施設毎に実施）

② 講演会（新型コロナウイルス感染症予防のため中止）

(3) 施設内研修を実施した。

① 保育課程に基づき保育計画・行事等の検討及び反省

② 園外研修参加者による報告

③ 施設ごとにテーマを設定した自主研修

7. 利用状況

施設名		福島隣保館 保育所	福島 保育所	瀬上 保育所	福島わかば 保育園	福島ふたば 保育園	飯坂 保育所	合計
定員		120	120	80	60	90	90	560
3月31日現在	年齢別 在籍人数							
	0歳	10	11	10	10	14	9	64
	1～2歳	40	37	28	23	32	27	187
	3歳	26	25	20	11	18	20	120
	4歳以上	53	52	36	24	34	43	242
	計	129	125	94	68	98	99	613
	充足率	107.5%	104.2%	117.5%	113.4%	108.9%	110.0%	109.5%
年間延べ	定員	1,440	1,440	960	720	1,080	1,080	6,720
	措置人数	1,526	1,482	1,114	790	1,126	1,120	7,158
	充足率	106.0%	103.0%	116.1%	109.8%	104.3%	103.8%	106.6%
	年齢別 在籍人数							
	0歳	104	122	107	102	118	93	646
	1～2歳	474	435	335	275	384	325	2,228
	3歳	312	301	240	125	216	186	1,380
4歳以上	636	624	432	288	408	516	2,904	
	計	1,526	1,482	1,114	790	1,126	1,120	7,158

地域子育て支援拠点事業（福島市受託事業）

わかば子育てセンター、せのうえ子育て支援センター（5日型）

いいざか子育て支援センター（6日型）

1. 運営管理

核家族化、少子化とともに家庭機能の変化、地域社会のつながりの希薄化が深刻になってきている現在、子育て中の親たちやこれから子どもを産もうとしている親たちが抱く不安や悩み、孤独感を共有し、寄り添う支援を意識し、行ってきた。

また、子育て支援センターが、地域における子育て支援の中心的役割が果たせるよう、各種事業を推進するとともに、事業が円滑に進むよう関係機関、施設との連携を図りながら行ってきた。同法人内の児童センターとの交流も進めてきた。

2. 事業内容

(1) 子育て親子の交流の場の提供及び交流促進

- ・年末年始期間のみ休業とし、広場開催を積極的に行い、利用の機会を増やした。土曜開催の「いいざか」は、平日にいない父親や家族での利用があった。また、9時からの開始時間により、込み合わないうちに利用したいとの理由での需要があった。独立したセンター設備があることで、利用者が5時間の開設時間を存分に利用している。
- ・「わかば」「せのうえ」においては、設備の確保がないため、実質2時間、残り3時間は、所庭開放などで代替して5時間開設にしている。今後課題になるところである。
- ・各センターともに0歳児の利用が高まり、特に開設3年目の「いいざか」は口コミや事前申し込み不要の手軽さで急増した。安全面も考慮し、年齢分け・0歳児のみの利用日を実施したい。
- ・感染症の発生状況をタイムリーに知らせ、症状や予防方法を伝え、感染の予防に努めた。

(2) 子育てに関する相談・援助の実施

- ・転入者の利用では、医療機関や遊び場、幼稚園・保育園入園状況が知りたいなどの相談が多く、利用者同士の会話を繋げるなどし、相談に答えた。
- ・子どもの生活や育ちに関する内容が主であったが、親の関わり方、言葉かけに起因することが多く、その大切さや方法を伝えた。また、家族関係の悩みの相談も目立った。
- ・養育支援を受けている利用者宅に訪問相談を実施した以前にはないケースがあった。
- ・発達に関する相談では、市の発達支援センターから医療機関、児童デイサービスの利用に繋がったケースがあった。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・パンフレットの配置や子育て通信の掲示できるところを増やし、地域に活動状況を知らせ、利用を促進した。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・親が伝えられなくなった季節の行事にも取り組んだ。
- ・子育てに限らず、親自身がリフレッシュできる内容の講座（フラダンス・折り紙・ネイルなど）に取り組み、好評を得た。
- ・講座の中で意識して他の親子のかかわり方の実際を見てもらい、知らせていく機

会を作った。

また、離乳食講座では、離乳食の基本を学び、調理体験を取り入れた幼児の食育講座では、食事の準備に関わる経験をし、みんなで一緒に食事をし、年齢に応じた育ちや言葉掛けを知らせた。

(5) 関係機関との連携・事業協力

- ・各方部のセンター間の交流を行い、利用している親子の情報の共有や支援事業内容の向上を図った。
- ・2020年からの5年間の子ども子育て新ステージプラン策定においては、パブリックコメントを出し、子育て支援の現場として支援事業計画策定に関わった。
- ・市保健師、ママカフェ、センター連絡会などと交流し、利用者の現状理解と支援の助言を得る機会を持ってきた。また、地域サークル活動支援も継続的に行ってきた。

3. 利用状況

(1) 年間利用状況

事業別利用者数	施設名	わかば子育てセンター			
	事業項目	開催回数 (回)	利用数		
			子ども(人)	大人(人)	合計(人)
	子育て広場 コーナー開放	158	1,002	884	1,886
	親子教室	12	166	152	318
	赤ちゃん広場「ピヨピヨ広場」	39	254	258	512
	わかば「子育て広場」	10	108	88	196
	合計	219	1,530	1,382	2,912
	施設名	せのうえ子育て支援センター			
	事業項目	開催回数 (回)	利用数		
			子ども(人)	大人(人)	合計(人)
	子育て広場「いちょうひろば」	157	973	818	1,791
	親子教室「のびのびくらぶ」	33	265	232	497
	赤ちゃん広場「あかちゃんこんにちは」	33	121	121	242
	所庭開放・コーナー開放				0
合計	223	1,359	1,171	2,530	
施設名	いいざか子育て支援センター				
事業項目	開催回数 (回)	利用数			
		子ども(人)	大人(人)	合計(人)	
子育て広場「こぼし」	192	1,692	1,387	3,079	
保育所体験事業				0	
親子教室	22	291	251	542	
センター開放	233	132	112	244	
合計	447	2,115	1,750	3,865	

(2) 子育て等に関する相談件数

施設名	相談方法内訳			合計
	電話	来所	訪問	
わかば子育てセンター	22	112	1	135
せのうえ子育て支援センター	3	54	0	57
いいざか子育て支援センター	24	80	1	105
合計	49	246	2	297

児童厚生施設

設置運営施設

福島市東浜児童センター 福島市野田児童センター

福島市指定管理施設

福島市蓬莱児童センター 福島市清水児童センター

福島市渡利児童センター

1. 運営管理

地域の児童健全育成の活動拠点として、児童に健全な遊びを通して、自主性、社会性を身に付け情操を豊かにし、運動に親しむ習慣の形成等により体力及び健康の増進を図るとともに、子育てサークル、子ども会等や青少年に関わる各種団体と連携し、地域組織活動の育成助長を推進した。

2. 活動状況

(1) 子どもたちが安全、安心して遊べる環境づくりに努めた。

- ① 保護者や学校等各関係機関との連携による防犯への対応
- ② 遊具等の定期安全点検整備と充実
- ③ 屋内外の各所修繕等による安全で利用しやすい施設の維持管理
- ④ 防火の推進、避難訓練の実施
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症防止対策の実施

(2) 子どもたちが気軽に立ち寄れる地域の安全な居場所として、センター主催事業の充実に努めた。

- ① 親子の触れ合いを配慮した事業の展開
- ② 地域のニーズを把握した各種行事や教室、クラブ活動の開催

(3) 放課後児童クラブの活動では児童の健康管理や基礎体力の増進に努めると共に、保護者会との連携及び会主催事業への協力を努めた。

(4) 児童センターの役割への理解と利用者の増加を目指して、独自の広報紙の発行、ホームページの更新など広報活動の充実に努めた。

(5) 福島市等の行政と連携を図り、子育て支援のために活動の場や各種情報の提供、育児サークルへの参加要請などを行い、安心して子育てが出来るための支援・協力を努めた。

(6) 子育て支援を担う法人内子育て支援センターと連携し、職員の支援技術向上の研修及び交流に努めることができた。また、子育て支援を行っている関係団体とネットワークを構築し、地域組織の自主的な児童健全育成活動の支援を行った。

(7) 異年齢児交流事業や世代間交流の推進に努めた。

(8) 中学生や高校生がボランティア等で参加出来る活動を行い、センター利用へつながるように努めた。

(9) 子どもたちと地域住民が育ち合う関係を作るための拠点となるよう、各種事業を通して地域との連携に務めた。

(10) けんだまフェスティバル等の 5 児童センター交流会の開催を通して親睦を図ると共に、健全育成に関する各種情報の共有化に努めた。

(11) テーマを決めた研修を充実させると共に、各センターの事業に相互の参加することで職員の資質向上を図った。

3. 利用状況

施設名		東浜 児童センター	野田 児童センター	蓬萊 児童センター	清水 児童センター	渡利 児童センター	合計
利用者数	幼児	794	789	704	445	2,221	4,953
	1～3年	3,598	12,061	6,124	10,273	6,166	38,222
	4～6年	500	1,276	694	453	1,090	4,013
	中高生	85	212	551	89	698	1,635
	大人	937	1,545	2,020	527	2,494	7,523
	計	5,914	15,883	10,093	11,787	12,669	56,346
	上記のうち登録児童	2,319	10,277	4,951	9,642	5,308	32,497
	1日平均利用者	20.4	54.4	34.4	40.7	44.3	194.2
開館日数(日)		291	292	294	290	286	